

南の風 For Junior 114

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

スクリーンを使った5アウトオフENSEの続きです。

③ブラースクリーン

「ブルー」とは、あいまい (blur) という意味。スクリーンのようなスクリーンと呼ぶ。

アライメントは1 1 3号と同じ。トップの1が左ウイングの2にパスする。パスした1は小走りに、ウイング2のディフェンスがいる方向に進む。スクリーンを掛けるという動きではなく、何気なく動くという感じ。1のディフェンスと2のディフェンスがぶつかるようにさせる。

ボールを受けた2は、1の背中をドライブするようにペイントに侵入する。1と2が同じサイズ同士ならブルーがよい。きちんとした P&R を掛けるとサイズが同じだと、スイッチで簡単に対応されてしまうが、ブラースクリーンならディフェンスが戸惑うことが多くなる。

以上がスクリーンからの5アウトオフENSEの例になります。

余談になりますが、ドリブルドライブモーションを使うチームにとってもブラースクリーンは有効性が高いと思われます。ドリブルドライブモーションで攻めるときに、P&Rでスクリーンをガチッとかけるのではなく、ボールを受ける気がないような動きで、何となくボールマンに近づくブラースクリーンは、ディフェンスにとって守りづらくなりノーマークになったり、よいクローズアウトが作れたりします。

5アウトオフENSEのまとめになります。

育成年代と言われるU15世代では、特定のポジション（センター、パワーフォワード、スモールフォワード、シューティングガード、ポイントガード）を作るというより、紹介した5アウトのように全員が1 on 1で仕掛けるようなオフENSEを取り入れることも一つのやり方です。

110号に書いたように5アウトオフENSEは、自分たち（オフENSE）が広がればディフェンスも広がるというのが基本的な考えです。5アウトにすることで背が低くても、ポストに立たなくてもゴール下が攻められるというのが、このオフENSEのコンセプトです。

マイナス点は、ギャップがせまい（オフENSE同士の間隔）ということ。トップからドリブルした場合、となりの2線のディフェンスがカバーに行きやすいので、ドリブルで抜いてパスを返しても、すぐに戻れるのでよいクローズアウトができなくなります。

トップとウイングが近いのでドリブルで割っていくのが難しくなります。しかし、ひとたびドライブで侵入できれば、ペイントはスペースが広く人がいないので（ヘルプはいるが）攻めやすくなりクローズアウトも作りやすくなります。このことを理解しておく、5アウトオフENSEのメリットを十分生かせると思います。繰り返しますが、『ギャップを如何にして広げるか』かが、このオフENSEの大きなポイントになるのです。

5アウトオフENSEは、皆さんの世代で挑戦する価値のあるオフENSEシステムだと思います。部活動やクラブで取り組んで見てください。